

巻頭言

判例の役割

椎橋 隆幸 3

特集 過失共同正犯論の現在

- ☆ 過失犯はいかにして『共同して』『実行』されうるか
——明石歩道橋事件を機縁として検討の道筋を洗い直す—— 古川 伸彦 4
- ☆ 過失共同正犯論の現在
——最高裁平成28年7月12日第三小法廷決定を契機として—— 金子 博 11

特集 サイバー犯罪の捜査

- ☆ サイバー犯罪の現状と捜査の課題 岡部 正勝 24
- ☆ 米国におけるサイバー犯罪捜査
——サイバー空間の搜索押収法—— 堤 和通 33
- ☆ ドイツにおけるサイバー犯罪の捜査 池田 公博 42

新連載 判例講座・刑事訴訟法〔公訴・公判篇〕

第1講 公訴の提起 川出 敏裕 48

外国刑事法研究

・強制・責任能力——比較刑法ノート(8)—— 比較刑法研究会 69

外国刑事法務事情

・英国刑事法務事情(49)——XLIX 2016年9月～11月の主要動向—— 清野 憲一 80

刑事裁判例批評

- (328) 被告人が、暴力団員である被害者らを挑発して被害者らの攻撃を招き、これに対する反撃として被害者を突き刺して殺害した行為について、正当防衛・過剰防衛の成立に必要な急迫性を欠くとされた事例
——東京高判平成27・6・5判時2297号137頁—— 瀧本京太郎 91
- (329) 女性器アートのわいせつ性と刑法175条1項後段の「頒布」該当性
——東京地判平成28・5・9LEX/DB25543071—— 大庭 沙織 97
- (330) 臨場した弁護士が、職務質問に応じない旨を明確に示しているのに、これを無視する形で行われた被疑者に対する有形力の行使が任意捜査の限界を超える違法なものとしてされた事例
——東京高判平成27・10・8判タ1424号168頁—— 麻妻 和人 103
- (331) 勾留中の被告人の拘留所居室等についての搜索差押許可状の請求、同許可状に基づく搜索・差押えおよび押収物の精査・不還付が違法とされた事例
——大阪高判平成28・4・22LEX/DB25542789—— 葛野 尋之 109
- (332) 米軍属である申立人が那覇地方裁判所に起訴されている強姦致死・殺人・死体遺棄被告事件について、東京地方裁判所への管轄の移転を請求した事案において、刑事訴訟法17条1項2号にいう「裁判の公平を維持することができない虞があるとき」に当たらないとして請求を棄却した事例
——最(二小)決平成28・8・1刑集70巻6号581頁—— 四宮 啓 118
- (333) 児童福祉法34条1項6号にいう「淫行」と「させる行為」の意義
——最(一小)決平成28・6・21刑集70巻5号369頁—— 嘉門 優 125

書評

- ・上田正基著『その行為、本当に処罰しますか——憲法的刑事立法序説』(2016年、弘文堂) 三上 正隆 131
- ・佐伯昌彦著『犯罪被害者の司法参加と量刑』(2016年、東京大学出版会) 本庄 武 134

◆最新刊

目的犯の研究序説

伊藤亮吉 著

A5上製 / 374頁 / 6,500円

主観的違法要素をめぐって行為無価値論と結果無価値論の対立点を明確化し、結果無価値論内部における違法観の違いを鮮明にしている目的犯の問題に新たな視点から鋭く切り込む論文集。

賄賂罪の理論

川端 博 著 刑事法研究第17巻

A5上製 / 370頁 / 7,000円

社会学者・文化人類学者マルセル・モースの『贈与論』の詳細な検討を通して、「贈与」を基礎にしてみとめられる「事実上の返礼義務」概念を基礎にして賄賂罪の理論的把握を試みる意欲作。

臓器移植と刑法

甲斐克則 著

A5上製 / 324頁 / 2,900円

人体の構成体利用と臓器移植の問題状況を、臓器移植法改正前後の動向をふまえて検討する。刑事規制をめぐる今後の課題と展望を示す研究書。

新時代の比較少年法

山口直也 編著

A5上製 / 272頁 / 5,000円

先進諸外国における少年法の厳罰化、子どもの権利論、被害者権利利益論を基軸として、当該国の少年司法の歴史と現代的意義を検討し、わが国の少年法改正の方向性を模索する研究書。

◆好評書

刑法総論 [第3版]

高橋則夫 著

A5上製 / 624頁 / 4,000円

刑法の行為規範と制裁規範という視点から犯罪論・刑罰論を展開する。新たに刑の一部執行猶予に関する法改正、多数の重要判例を盛り込む。法科大学院・法学生必読の本格的体系書。

浅田和茂先生古稀祝賀論文集 [上巻] [下巻]

井田 良・井上宜裕・白取祐司・高田昭正・松宮孝明・山口厚 編

A5上製 / 994頁・868頁 / 各25,000円

遠ざかる風景——私の刑事法研究——

浅田和茂 著

四六上製 / 130頁 / 1,800円

著者の刑事法研究を振り返り、その折々の雑感を掲載する随筆集。

刑法原論

曾根威彦 著

A5上製 / 698頁 / 4,500円

刑法に関する理論体系的思考を踏まえたうえで、論理的に整合性のある形で解釈論上の個別問題の具体的解決を図る。刑法の特色・性質を根本に遡って原理的観点から論述した体系書。

刑法各論講義 [第4版]

松宮孝明 著

A5上製 / 554頁 / 3,500円

自動車運転死傷行為等処罰法などに対応。典型例から始めて限界事例を知るという刑法各論学習の鉄則に則り、現行法の制定理由を踏まえて各論解釈を展開して到達点を示す最新の基本書。

共犯者の自白と証人対面権

小早川義則 著 証拠法研究第三巻

A5上製 / 424頁 / 8,000円

最新の合衆国最高裁判例を踏まえて、わが国における共犯者の自白の伝聞例外としての証拠能力の問題点について、憲法上の証人対面権の観点から問題点を検討し、私見を提示する研究書。

ビギナーズ犯罪学

守山 正・小林寿一 編著

A5並製 / 474頁 / 3,200円

法学、心理学、社会学といった犯罪学の伝統的な研究領域に加えて、諸外国でトピックとなっているテーマも取り上げる。各章にコラムを挿入し、身近に親しみやすい工夫した入門書。

刑事事実認定の基本問題 [第3版]

木谷 明 編著

A5上製 / 574頁 / 4,500円

「取調べの全面可視化」制度の導入により従来の手法が大きく変容すると予想される現在、一線の刑事裁判実務家が刑事事実認定の重要問題を鋭く論じる。法曹を志す人々に最適の一冊。

刑事上訴審における弁護活動

植村立郎 監修 岡 慎一・神山啓史 編

A5並製 / 254頁 / 2,800円

法定刑の変化、証拠開示手続の法制度化・拡充化、公判前整理手続・裁判員裁判の実施等により控訴審の有り様が改めて問われている現在、第一線の執筆者がQ&A方式で様々な疑問に答える。



成文堂

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町514 価格は税抜きです
<http://www.seibundoh.co.jp> 電話03(3203)9201(代)・FAX 03(3203)9206